

日本語教室の視聴覚教育

木村宗男

語研の日本語教室で行なわれている視聴覚教育を、使用する機器・教具によって分けるとつぎのようになる。

1 VTR

上級のあるクラス(主として社会・人文系、漢字常用外国人)で、週3コマのうち1コマをVTRによる授業に当てている。テレビのルポルタージュ、ドキュメンタリー、教養番組、劇などによって、耳からの学習を行なう。日本語の聴解訓練と、社会的・文化的背景に対する理解を目的としている。

このほか、中級後期から上級にかけてのクラスで、上記のVTR教材を随時使用する。教材用に録画したVTRテープ90本(30分もの)を用意している。

2 映画

在京各日本語教育機関が協力企画した文化庁国語課制作の日本語教育映画(16ミリ・カラー)「敬語 その1 — 人間関係とことば」および「敬語 その2 — 秋の一日」を初級段階で適時に使用する。

3 オート・スライド

映画と同じようにして文化庁国語課が制作した「生活の中のことば — 駅で —」を文字学習の応用練習として使用する。東京駅・新宿駅の構内標識板や案内板のかがずかずを系統的に配列し、ナレーションを加えたもので、交通機関利用の手引きにもなる。

4 スライド

中級のあるクラスで、日本の地理・歴史の既製スライドを教材とする授業を行なっている。週10コマのうち1コマまたは週20コマのうち2コマがこれに当てら

れている。

そのほかのクラスでも、自製のスライドが表現練習・聴解練習・日本文化の紹介などに随時利用されている。

5 絵画・写真・小道具

主として初級段階で、新出語・新出構文の提示、表現練習に使用される。雑誌・グラフなどから切り取って厚紙にはりつけたものがひんばんに使用されている。自動詞・他動詞を練習するための独特の小道具セットも使われる。

6 テープ

語研作成の初級・中級教科書には自習用の付属テープがある。劇団員に依頼して録音したものである。LLは初級で週10コマ中1コマを当てることを原則としている。

以上述べたとおり、現在行なっているのは視聴覚教育といっても、まだ実験的散発的なものと言わざるをえない。あらゆる器材を駆使して、体系的な視聴覚教材を整備することを計画しているが、種々の制約にはばまれて、作業は遅々として進まないのが実状である。